

- ・ 良彦 一晩中だぞ。耳元を蚊が飛んでるみたいでむかつくよ。もうやめてくれな。今度別なものを捨てていいよ。
- ・ 猛 いい話だと思うんだけどな。
- ・ 良彦 わかた。わかた。読みたければ俺の見えないところで、俺に聞こえなように読んでくれ。
- ・ 猛 つまんないやつだな。
- ・ 良彦 うるさい。仕事だ。
- ・ 猛 よし！

◎ 二人はソントを脱ぎ捨てる。下には純然たる乞食リック。

作 酒井 一成

ん

◎ 闇の中に二人の小さな人影が現れる。一人が手に持った絵本らしきものを読んでるらしい。

- ・ 猛 「……ところが、ピーターパンは、さうと空ンディーをうけとめました。そして、ふねにとびあがり、手下たちをぎつぎつとやっつけました。」さあ、リック。こらしめてやる。「なに、なまよきなえつら。力いつぱい剣をふりまわしたそのひょうし、リックは、海ドボウ。「わわわわ、わにだ。たすけてえ「わあ、ばんざい、やっけた。子供達、おおよろこび。ティンカドルは、みんなにあやまりました。もちろん、みんなはゆるしてあげました。空ンディーとジョン・ミカルは、海賊船、おとうさん、おかあさんの待つ家に送ってもらいました。」さようなら、ピーターパン。みんなさよなら。「きつと、またくるよ。さようなら。」

◎ 舞台が明るくなる。裏町の街角に少年が二人。晝のソントなどをおおている。

- ・ 良彦 もう捨てちまえよ。その汚い本。
- ・ 猛 やだね。
- ・ 良彦 捨ててきて三日もたてないのに、もう百四十七回は聞たぞ。
- ・ 猛 教えてたのかよ。
- ・ 良彦 いや。
- ・ 猛 何度読んでも良いものは良いじゃないか。
- ・ 良彦 よかないよ。おとき話だろ。
- ・ 猛 そうさ。

- ・ 良彦 なに威張ってるんだよ。似合わないんだよ。おとき話なんて。そういうのはな。かあちゃんの上で冷たいミルクでも飲みながら、金持ちのおぼちやまが読んでもらうものなんだよ。

- ・ 猛 ふざけたこといっいなよ。
- ・ 良彦 大体、なんだ。空飛ぶなんて言うのはよ。現実味が全然ないだろ。
- ・ 猛 そこがおとき話なんだよ。
- ・ 良彦 そんなもんで腹がふくれるか？
- ・ 猛 心が豊かになるんだよ。
- ・ 良彦 そいつは捨ててあたらんだろ。前の持ち主だて、そいつがくだらなひと思つたから捨てちまったんだよ。
- ・ 猛 じゃあ、お前もくだらなひと思つたから捨てられたのか？
- ・ 良彦 多分な。捨て子なんてみんなくだらなひもんよ。
- ・ 猛 俺は捨てられたとは思ってないぞ。
- ・ 良彦 ほう？
- ・ 猛 俺が捨てたと思ってるよ。
- ・ 良彦 何を。
- ・ 猛 世の中を。
- ・ 良彦 なにかこつけてるんだよ。捨て子が。
- ・ 猛 お前こそ捨て子じゃないか。
- ・ 良彦 とにかくそいつを読むのはもうやめてくれ。昨日は一晩中頭のなかをピーターパンとティンカドルが飛び回っていた。
- ・ 猛 うらやましいな。

自由は金にはかえられないけど、お腹空つては戦きは出来なひ。あんたの財布で、ご馳走しろよ。いいことをすればいいことあるぜ。まちがいないさ。

こんななりしてもドコイ生きてる自由を求めろさ。すらい人だぜ。まかせてくれよ。

◎ 二人並んで乞食を始める。そへ、克也と朋子。

- ・ 克也 なあ、いいじゃないか。
- ・ 猛 お恵みを。
- ・ 良彦 やめろ。
- ・ 猛 なんて。
- ・ 良彦 お前、目がなひのかよ。あれ、チンカツだぞ。
- ・ 猛 おやおや、女連れかよ。
- ・ 良彦 様子がんだ。隠れる。

◎ ふたり、物陰に隠れる。

- ・ 克也 この辺は、さうだからさ。俺が付き合せてあげろよ。
- ・ 朋子 えでも。
- ・ 克也 そう言わずにさ。
- ・ 朋子 ああ、どちらさまですか。
- ・ 克也 はきり言うけどさ。俺、この辺りでは結構有名なのよ。「顔つていうかさ。俺を通さないとたいいていのは出来なひのよ。悪、連中もさ。俺の顔見ると逃げ出すの。」

- ・ 朋子 本当ですか。
- ・ 克也 なんだよ。その疑、深そうな目は。
- ・ 朋子 だて、そんな偉そうな人に見えないんですもの。
- ・ 克也 なな、そこがいいところなんだよ。男はさ、いくら偉くても、偉そうな

顔をしちやダメなんだよ。自然体というかさだまてても自然にかもし出すものがあるだろ。

- ・ 朋子 全然
- ・ 猛 あれ、もしかして口説てるのかな
- ・ 良彦 うーん、信じたくないな
- ・ 猛 でもきれいな人だな
- ・ 良彦 あ、女の人か？
- ・ 猛 うん、掃き溜めに鶴というか、こんな所ではめたにお目にかかれな人だと思っ。
- ・ 良彦 そうだな
- ・ 猛 チンカツには、どう考えてもちたひいな
- ・ 良彦 そうだな、やめさせるか
- ・ 猛 もう少し様子をみよう
- ・ 克也 このあたりでのさばってる大島カンピーってあるじゃな。あれさいるる悪いことしてるみただけど、このあたりはさ、俺がいるから近寄れないの。

- ・ 朋子 大島カンピーって悪いことしてるんですか？
- ・ 克也 してるしてる、悪いことの大盛りだよ。シヤブは売るし、シヤブってなんですか？
- ・ 朋子 あ、君結構育ちがいいんじゃない？
- ・ 朋子 はあ？
- ・ 克也 シヤブっていうのはさこゝなんというか、まあ薬だな
- ・ 朋子 お薬なんですか？でもどうして悪いことなんですか？
- ・ 克也 まあつまりな、その薬を使うと気持ち良くなちまうわけだ
- ・ 朋子 悪いことなんですか？
- ・ 克也 うん、まあなんと説明していいか、あ、知らない？「それとも人間やめますか？」
- ・ 朋子 知りません
- ・ 良彦 なにやってるんだ？
- ・ 猛 麻薬の害について説明してるらしい。
- ・ 良彦 とんでもない奴だな、あいつ、陰シンナーとか売りさばってる癖に、シンナーって麻薬か？
- ・ 猛 似たようなもんだ。
- ・ 良彦 とにかく、そうやてさ、悪いことばかりしてる大島カンピーから俺はこの土地を守るわけだ。

- ・ 朋子 そうなんですか？
- ・ 克也 感動したか？
- ・ 朋子 はい。
- ・ 克也 それだけじゃなんだ、大きな声では言えないがこの辺りにはさ、乞食が出るんだ。
- ・ 猛 俺達のことか？
- ・ 良彦 多分
- ・ 朋子 乞食ってなんですか？
- ・ 克也 これくらいのはちげなガキがふたりでさ
- ・ 朋子 ガキってなんですか？
- ・ 良彦 少年と言え！
- ・ 朋子 少年？
- ・ 克也 そう、少年でも汚いんだ、もうからだ中ぼろぼろでさ、しかも態度がでかくて頭悪いの。
- ・ 猛 言いたこと言ってくれるな
- ・ 良彦 ぶん殴てやろうか？
- ・ 猛 ちやうと待てよ
- ・ 朋子 はい。
- ・ 克也 そいつらが乞食やてるんだよ、この辺で。
- ・ 朋子 乞食ってなんですか？
- ・ 克也 だから、金をもらおうとするんだよ、誰にですか？
- ・ 朋子 みんなに。

どうしてですか？

- ・ 朋子 金がないからだろ
- ・ 克也 かわいそうな人なんですよ
- ・ 朋子 同情されると不気味だな
- ・ 良彦 純情な人なんだな
- ・ 猛 ただの馬鹿にしか見えない。
- ・ 良彦 そんなことないよ
- ・ 良彦 なに怒てるんだよ
- ・ 克也 君みたないかにもお金持てそうな人がふらふらしてたら、あいつらすぐにかかってくるから、俺がついてさ、守てやるよ
- ・ 朋子 あてみたいな
- ・ 克也 誰に？
- ・ 朋子 その、乞食さんたち
- ・ 克也 なに言てるんだよ、汚いぞ、病気が移るぞ
- ・ 良彦 ああ、やろう！
- ・ 克也 十メートルくらいの所に来ただけでさ、プーンと匂いするんだから、俺はあいつらを十メートルつてよんでるの。
- ・ 猛 お、大島カンピーのものだ！
- ・ 克也 はい！

◎ と深おじぎ

- ・ 克也 どうも気がつきませんでした。失礼しました。お知らせいただければお迎えに参りましたのに。

◎ 猛と良彦が出てくる

- ・ 良彦 お知らせいただければだ！お前（とき）テンピラになせわれわれが連絡しなければならぬんだ。
- ・ 克也 はい、失礼しました。
- ・ 猛 今後気を付ける。
- ・ 克也 はい。
- ・ 猛 この女だが、お前の知り合いか？
- ・ 克也 はい、いいえ。
- ・ 良彦 どちだ！
- ・ 克也 そこで知り合いました。
- ・ 猛 よし。俺達が預かる。
- ・ 克也 え？

◎ 顔をあげたとたん、相手の正体に気づく

- ・ 克也 なんだ、おまえたちか？
- ・ 猛 おまえたちとはなんだ。どうせ俺達は十メートルだよ。
- ・ 良彦 どうせ病気持ちだよ。
- ・ 克也 またく、脅かしやがて。
- ・ 朋子 あ、お知り合いですか？
- ・ 克也 乞食だよ、乞食
- ・ 良彦 なにしてるんだよ
- ・ 朋子 どんな匂いがあるのかと思ひまして
- ・ 克也 やめろよ、病気が移るぞ
- ・ 良彦 てめえ、はたおすぞ
- ・ 克也 やれるものならやてみる
- ・ 良彦 上等じゃなにか？
- ・ 猛 おい、これはなんだ、やばい。
- ・ 朋子 それは、私のお財布です。
- ・ 良彦 なあんだ、珍しく損得抜きで、女を口説てるのかと思たら、ただのズリ

じゃないか。

- ・ 克也 なんだと。
- ・ 猛 お嬢さん、これがチンカツの正体ですよ。
- ・ 朋子 チンカツ？
- ・ 良彦 チンピラの克也、略してチンカツ。最低の男だよ。
- ・ 克也 貴様ら！
- ・ 猛 あー！ 大島カンパニーだ！
- ・ 克也 どうも、気がつきませんで失礼しました。お知らせいただければお迎えに参りましたのに……だましたな。
- ・ 良彦 ばーか。
- ・ 克也 ちきしょう、覚えてろ。
- ・ 猛 じゃあな。

◎ 克也 去っていく。

- ・ 良彦 進歩のない奴だな。
- ・ 猛 そんなに大島カンパニーがごわいかな。
- ・ 良彦 ただ臆病なだけだろ。
- ・ 猛 うん、ほら、あんたの財布だろ。

◎ 財布を投げ渡す。

- ・ 朋子 ありがとうございます。
- ・ 猛 気にするなよ。
- ・ 朋子 あ、ご病気なんですか。
- ・ 良彦 俺達か？
- ・ 朋子 だって、あの人が。
- ・ 良彦 あんな奴の言うことまに受けるなよ。それよりさ、俺達から言うのも何な。

- ・ 朋子 はい。
- ・ 良彦 捨て交番に届けても一割ももらえないんだよな。まあ、俺達の場合危険手当

当 とうか、まあ、ちうと色つけてもらってだ。

- ・ 猛 おい。

◎ と、猛が良彦を隅にうつれていく。

- ・ 良彦 なんだよ。
- ・ 猛 やめろよ。
- ・ 良彦 何を。
- ・ 猛 あの、人、本当のお嬢さんだよ。
- ・ 良彦 だからどうした。
- ・ 猛 何というか、悪い印象を与えたくないんだよな。
- ・ 良彦 なに言ってるんだ。おまえ、自分のかこ見てみるよ。自分の商売考えて見ろや。いつてみる、お前はなんだ。

- ・ 猛 無労働者

- ・ 良彦 そう、自由を愛する無労働者、みんなのカンパに頼って生活してるんじゃないかよ。特に今回の場合、一応労働者でしたんだぞ。文句があるか。

- ・ 猛 でも

朋子 分かりました。さきの人が、乞食という方々は、皆さんからお金をもらう仕事なんだって。

- ・ 良彦 まあ、簡単に言えばな。
- ・ 朋子 お金がないんですね。
- ・ 良彦 まあ、はきり言えばな。
- ・ 朋子 私もなんです。
- ・ 猛 え？

◎ 良彦が財布を改めると確かにからば。

- ・ 良彦 あんた、いいところのお嬢さんじゃないの？
- ・ 朋子 お金で、わたし触たことがないんです。
- ・ 猛 貧乏ぢたんだ。
- ・ 朋子 いつもトメさんが出てくれたから。
- ・ 良彦 トメ？

朋子 とっても優しい人なんです。こんな本気で、髯はやしてるんだけど、私が行くところにはいつもついてきてくれるんです。

行くところにはいつもついてきてくれるんです。

- ・ 良彦 ボディガードかな。
- ・ 朋子 なんです、か、ボディガードで。
- ・ 猛 本当のお嬢さんなんだ。
- ・ 良彦 で、今日はその、トメさんは？
- ・ 朋子 そろと近寄って後からつんとたたいたら、ねちやいました。
- ・ 猛 なにで叩いたの。
- ・ 朋子 ちちやいときおしいさんが買ってくれた花瓶です。割れちぎってでも、急でたから謝ることが出来なくて。

- ・ 良彦 大変だ。

- ・ 猛 うん。

つまり、一文なしと言うわけだ。

- ・ 朋子 はい。

嬉しそうな顔するなよ、で、なんでそんなことしたんだ？

朋子 私、子供の頃からピーターパンが好きだったんです。

- ・ 良彦 げげ！

ある夜、空ンデイのところにピーターパンがやってくるんです。「ね

え、空ンデイ、僕と一緒にネーランド行かないか

ちがうよ、影をなくして探しに来るんだよ。

朋子 そうそう、詳しいんですね。

良彦 心ならずもね、最近夢にでて来るんだ。

朋子 いいですね。

良彦 とんでもない。

朋子 だから私、子供の頃からいつピーターパンがやってくるのか、楽しみに待て

たんです。

良彦 ずっと今までねえ、幾？

- ・ 朋子 17。

良彦 17ねえ。

朋子 でも、いつになたらうちにもピーターパンが来るのって聞くと

メさんもバも、みんなお仕事が忙しくなっちゃうんです。

良彦 わかるよ。

朋子 それで私、自分で行くことにしたんです。

良彦 どう？

朋子 ネーランド。

良彦 ピーターパンに会い？

- ・ 朋子 はい。

良彦 ダメだ、こりや

朋子 遠んですか？

良彦 なんと、いつていいの、か、まあ、遠くと言えば遠くよな。

朋子 そうなんです、か。

良彦 心配するなよ、俺達が連れて行ってやるよ。

- ・ 良彦 どう？

猛 ネーランド、いきたくないんだ、俺達が連れて行ってやる。

朋子 うれしい！

良彦 おい、ちちやいよ。

◎ 良彦が、猛を隅にうつれていく。

- ・ 良彦 おまえ、気でも狂たのかよ。
- ・ 猛 なんだよ。

・良彦 俺は知らないからな お前 何とかしろよ。
・猛 そう言わずにつき合えよ。
・良彦 なにか、緑のタイツは、空飛ぼうていうのか。てめえ、連れてけるものなら連れてみるよ。
・猛 いいじゃないか。だて、かわいそうだから。
・良彦 なにかかわいそうだ。俺は一文の得にもならないことはやらない主義なんだよ。

・猛 いいかよく聞けよ。あの子はどうみてもいいところのお嬢さんだよな。
・良彦 だろうな。常識を知らなすぎる。
・猛 でだ。俺達が彼女の家を探し出して送り届けるわけだ。
・良彦 めんどくさいな。
・猛 捨たものでも一割のお札だよな。
・良彦 うん。

・猛 大金持ちの親にとりて娘の価値てのは、どれくらいのものだろう。
・良彦 十億はくだらないな。
・猛 一割でも一億だな。
・良彦 よし、乗た。
・猛 いいだろう。

・良彦 本当にそれだけだよな。おまえ、なんか変なこと考えてないよな。
・猛 なんだよ、変なことて。
・良彦 まあいい。付き合うよ。
・朋子 いつ出発するんですか。
・良彦 そうですわね。
・朋子 ネー、ランドで遠いですよな。
・良彦 なに、すぐそこですよ。

・朋子 皆さんにはすぐそこかも知れませんが、わたし、空飛、なんです。教えますよ。
・良彦 調子に乗るなよ。
・朋子 つきあえていつたのは誰だよ。
・良彦 教えてもらってるんですか。
・朋子 まかせてください。
・良彦 ありがとうございます。頑張ります。まず、どうするんですか。
・良彦 ちょっと待ってください。そんな急にいわれても、

いろいろ訓練をしないといけないんですよ。
・朋子 でも、空ンディーは、すぐ飛たと思うんですけど。
・良彦 それはおとき話…いや、まあ体重に応じていろいろコースがあって。私、本てますか。
・朋子 いや、そういうわけじゃ、お。
・良彦 まあ、その、ちよとだけは。

・朋子 わたし、痩せます。
・良彦 いや、そんなむきにならなくても。
・良彦 じゃあ、とりあえず僕らの隠れ家に行きますか。明日から訓練開始ていうことよ。
・朋子 はい。

◎ そと、ぼろぼろの服を来た女の子。
・ネズ ねえ、なにやってるの。
・猛 なんだ、ネズミか。
・ネズ だれ、その人。

・猛 この人はなあ、名前なんていいましたは。
・朋子 申し遅れました。朋子です。
・ネズ 朋子ねえ、どうしたの、その子。
・ネズ お前には関係ないだよ。
・ネズ ひどい言い方。この間おまわりに追かけられたとき、私が囮になって逃

がしてあげたの忘れたの？
・猛 うるさいなあ、その汚い顔をちとと引込めな。
・ネズ お礼もいつてもらてなわよ。あの時は万引きだからつかまた

ら孤児院に送り返されるどころだ。たんでしょ。

・朋子 万引きてなんですか。
・猛 気にしないで。帰れていつてるだらう。
・ネズ ちかくいこと教えてあげようと思てたのに。
・良彦 なんだよ、いいことして。

・ネズ あ、のねえ。
・猛 聞きたくないね。
・ネズ 最近あんたたちを追かけ回してる。おぢいなおまわりがうるじゃない。

・良彦 保護観察員ていうんだよ。
・ネズ あいつ、結婚するんだて。
・猛 めでたいじゃないか。
・ネズ とろがその相手が誰だと思う？ 大島カンパニーの関係者らしいのよ。
・猛 ありがとよ、じゃあな。
・ネズ 話はこれからのよ。

・猛 関心なね、いいから消えろよ。なんだ、そのぼろぼろの服はよ。
・ネズ おたがいさまでしょ。
・猛 汚い顔して、男みたな言葉、かやがて、女ていうのはな、朋子さ。んみたにきれいで、良い匂いがあるもんなんだよ。まあ、お前には腐れた魚の匂いがお似合、だけどな。

・ネズ ひどいよ。
・猛 本当だから仕方ないだろ、じゃあな。

◎ 猛と朋子、帰る。

・ネズ ひどいじゃないかよ。
・良彦 気にするなよ。あいつ、少し舞上がってるんだよ。
・ネズ なんだよ、あの女。
・良彦 空ンディーだよ。
・ネズ なんだ、それ。
・良彦 おとぎの島に行くんだとき。

・ネズ あつ、これか、と、頭の上で手をまわす。
・良彦 さあ、な、どちにしても末の山だな。

・ネズ ふん。
・良彦 じゃあな。
・ネズ おい。
・良彦 しばらく近寄らないほうがいいんじゃないかな。猛もすっかりアホにな

てるみたいだしな。
・ネズ だて。
・良彦 気になるか。
・ネズ うるさいな。
・良彦 ああ、その調子だ。弱気なネズミなんてみたくも、ないや。だて。

・ネズ 似合わないからやめな、じゃあな。
・ネズ おい、見張てるよ。
・良彦 何を。
・ネズ うるさいな、気にするなよ。
・良彦 わかてるよ、じゃあな。

◎ 良彦、帰る。暗転

2

◎ この地区の警察署長の私宅。署長の部屋。一人息子の太郎が、署長と向かい合っている。ただし舞台上には署長は登場しない。
・太郎 結婚！

- ・署長 …
- ・太郎 久しぶりに水入らずで話そうなんて言い出すから、何かと思たらなんなんですか？

- ・署長 …
- ・太郎 いやとか、そういう問題じゃなくて、結婚なんて本人の意志の問題でしょ。いきなり結婚相手がいるから結婚しろと言われて、は、そうですね、というもののじゃないでしょ。

- ・署長 …
- ・太郎 そんなものか、それが当たり前ですよ。そういうことだから父さんは部下に頭が堅っていわれるんだ。何でも自分で決めてしまわなければ気がすまないし。

- ・署長 …
- ・太郎 そうですね。だいた、僕が保護観察員になたのだから、お父さんが勝手に「お前もわしのあとを継いで警察官になれ」なんて言い出すから、困った挙げ句まあ顔を立てて似たような仕事を選んだんですよ。僕だって人並にやり

た
いことだてあたんです。

- ・署長 …
- ・太郎 まあ、なんだといわれて答えるような仕事じゃないですけど。

- ・署長 …
- ・太郎 お父さんも「こいな、童話作家ですよ。どうわさつか。子供が好きなんで。だからまあ、子供と接してられる仕事がよかったです。

- ・署長 …
- ・太郎 少年課？ 勘弁してくださいよ。今だてとんでもない子供が街にはあふれているんだから。そんなに僕を非行少年と係わらせたいんですか。もう間に合ってますよ。このところ二人組の乞食をなんとかして更正させようとして頑張ってるんです。お父さんのところみたいになんでもかんでも少年院にぶちこむ訳にはいかなんですよ。

- ・署長 …
- ・太郎 怒らないでくださいよ。少年課の警察官と保護観察官じゃ役目が違うんだから。とにかく僕は忙しいんです。結婚なんてまだまだ先のことです。さばりお断りします。

- ・署長 …
- ・太郎 命を、僕はお父さんの部下じゃありません。警察じゃ署長かも知れないけど、僕に対して命令したてだめです。

- ・署長 …
- ・太郎 美人だろ、そういうことをいってるんじゃないんです。で、どういう人なんですか。

- ・署長 …
- ・太郎 だから、美人は分かりましたよ。まあ、ほかにはその、スリーサイズとか。
- ・署長 …
- ・太郎 一生の問題ですよ。
- ・署長 …
- ・太郎 大島カン二ー？ あのやくざ集団ですか。

- ・署長 …
- ・太郎 今は株式会社だて、お父さん、警察署長ですよ。あつらの正体なんて子供でも知ってますよ。それを…。

- ・署長 …
- ・太郎 気でも狂ったんですか。何で僕が大島の一人娘なんかと。失礼します。
- ・署長 …
- ・太郎 …
- ・太郎 どうして、街 出るんですよ。子供達が僕を待っているんです。とにかくこの話はなめたこととしてください。

◎ 太郎 無然としてちて行く。

◎ 猛 良彦の隠れ家 猛と朋子がゐてくる。

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

- ・猛 …
- ・朋子 …

僕を召使だと思ってください。僕これでも働きの者なんですよ。あもう一人いた奴、あつ良彦っていうんです。でも、僕は一生懸命やりますから、あ、小いだけで、何にも出来はんですよ。でも、僕は一生懸命やりますから、あ、小くて汚いところだけど、迷惑かけないように頑張りますから。

- ・朋子 …
- ・猛 …

- ・朋子 …
- ・猛 …

- ・朋子 …
- ・猛 …

- ・朋子 …
- ・猛 …

- ・朋子 …
- ・猛 …

- ・朋子 …
- ・猛 …

- ・朋子 …
- ・猛 …

よ
あ、あたまがたげ。

ちと言ってください。
またく、お嬢さんだと思てたらとんでもない奴だな、でも、案外お前、いい奴だな。

- ・朋子 …
- ・猛 …

- ・朋子 …
- ・猛 …

- ・朋子 …
- ・猛 …

◎ とそこに良彦が帰ってくる。

・良彦 おい、今日はめし、どうするんだ？

・朋子 なんだよ、びびくりしたじゃなかよ

・良彦 おい、猛 お前この人に何かしたのか？

・猛 なにもしちやいなよ。

・朋子 な。

・良彦 ネズミが二人になたのかと馬たよ

・朋子 あとさ、あなたたちみたいな服、なかよ

・良彦 服？

・朋子 あ、そういう変わった服が私もきてみたいんだぜ。そういう姿をしていると、何となく空を飛、そうな気がするんですけど

・良彦 おい、このしぎり方なんとかしてくれ

・朋子 おかしいですか？

・猛 いえ、とんでもない。

・朋子 それでは、服を貸してくださいだよ

・猛 でも、汚いから

・朋子 そんなことないです。なんだかここにびたりして、動きやすそうだし、わたし、そんなふうになてみたいんです、だぜよ

・良彦 まあ、本人がそういうんならな

・朋子 うれしい！

◎ 服を脱ぎ、こうとする。

・良彦 ちよと待てよ

・朋子 だめですか

・良彦 まあ、服は貸してやるから、ここで着替えるなよ

・朋子 でも、ここが寝室だつて

・良彦 お前、妙な下心はなつていったよ

・猛 当たり前だろ、ほら、このぼろ貸してやるから、裏の草むら行って着替えて、こいよ

・朋子 はい。

◎ 着替えて持て、朋子が去る。

・良彦 知らないぞ、俺、頭がおかしくなってきた

・猛 本当に純粹な人だよ

・良彦 馬鹿だよ、ありや、で、どうするんだよ

・猛 とにかく、あの人の口に会うような食物を探して、こいよ

◎ 隅にある空き缶をひっくり返すと、中から小銭が落ちる。

・良彦 おい、なにするんだよ

・猛 ちよと買、物に行ってくるよ

・良彦 それ、ここ三ヶ月かかて貯めたんだぞ

・猛 わかてるよ

・良彦 二人がかりで、ちよと貯めたんだからな、勝手に使うなよ

・猛 その割には少ないな、ちよと一食分て、どころだ

・良彦 おい、どんな、馳走を買ってくるもりなんだ。相当あるはずだよ

・猛 ばか、俺たちがいつも喰っているようなものと一緒にするなよ

・良彦 待てよ、二人が賛成しなければ、この金には手をかけなつて約束したじゃなか

・猛 なんだ、お前反対か

・良彦 当たり前だろ、三ヶ月の苦勞を、ちよとお嬢さんの気まぐれに付き合つて、バーに出来るかよ、俺たち二人なら一週間は食える金だよ

・猛 明日稼げばいいんだよ

・良彦 明日は空の飛び方を教えるんじゃないか

・猛 ……

・良彦 大体お前、本気で考えてるのかよ。あつたの家見けて、礼金をもらうんだろ、それには金もかかる。元手があるんだよ、おい、お前、本気で探す気あるんだろ、うな、答えろよ。

・猛 行ってくる

・良彦 やめろ、俺はまだ賛成してないぞ

◎ 猛は黙って横をすり抜けようとする。良彦が前に立ちほだかる。

・猛 殴るぞ

・良彦 やてみる

◎ にらみ合う二人。そへ、朋子が着替えて戻ってくる。

・朋子 にらめこして、るのかよ

・猛 腹減、ただろ

・朋子 腹減、た？

・良彦 お腹がすいて、なにか贅沢なものでも食たいんじゃないやありませんか、て、るんですよ、ああ、また、古からのスタートか。

・朋子 食、たくありません

・猛 でも

・朋子 私、ダ、エ、ツ、ト、します。少しでも早く空を飛、るようには

・良彦 参、た、ね、これは

◎ いきなり太郎が、入ってくる。

・太郎 こんばんね

・良彦 なんだよ、びびりするじゃなかよ

・朋子 びびりするじゃなかよ

・太郎 おや、今日はネズミ、君も来るのか

・朋子 ネズミ？

・太郎 いや、違、た、なんだ、新しい仲間が増えたのかい。

・猛 悪、かよ

・太郎 いや、そういうわけじゃ、ないけど、ね、食、る、も、と、か、寝、る、と、こ、ろ、の、こ、と、を、考、え、る、と、少、し、気、に、な、る、な

・良彦 関係、ない、だ、ろ

・太郎 そんな、こ、と、は、な、い、さ、見、た、と、こ、ろ、き、れ、い、な、お、嬢、さ、ん、じ、ゃ、な、い、か、お、嬢、さ、ん、

・猛 いった、ど、う、し、て、こ、ん、な、と、こ、ろ、に、い、る、ん、で、す、か

・良彦 関係、な、つ、て、言、て、る、ん、だ、よ、第、一、こ、い、つ、は、お、嬢、さ、ん、な、ん、か、じ、ゃ、な、い、ぜ、俺、た、ち、と、お、ん、な、じ、え、食、仲、間、で、さ、朋、吉、て、い、う、ん、だ、よ、北、の、ほ、う、か、ら、流、れ

て、きて、偶、然、一、緒、に、な、つ、た、ん、だ、よ

・太郎 そうか、で、お、腹、は、す、い、て、い、な、い、か、本、当、は、き、ち、ん、と、保、護、者、の、と、こ、ろ、に、帰、る、の、が、一、番、だ、が、な、か、な、か、そ、う、も、行、か、な、い、ら、い、い、と、に、か、く、仕、事、だ、け、は、と、り、あ、

え、ず、探、し、て、お、く、か、ら、今、度、は、逃、げ、な、い、で、ち、ゃ、ん、と、や、る、ん、だ、ぞ

・良彦 はい、よ

・太郎 じゃあ、僕、は、こ、れ、で、朋、吉、君、明、日、ま、た、会、う、よ、今、日、は、何、だ、か、落、ち、つ、か、な

い、み、た、い、だ、か、ら、明、日、ゆ、く、り、話、を、し、よ、う、お、や、す、み

◎ 太郎、帰る

・猛 また、く、お、節、介、な、奴、だ

・朋子 あの、友、お、名、前、は、な、ん、て、お、し、や、る、ん、で、す、か

・良彦 あの、方、な、ん、て、も、ん、じ、ゃ、な、い、よ、神、谷、太、郎、二、十、六、才、今、の、と、こ、ろ、独、身、保、護、観、察、員、で、奴、く、つ、い、こ、の、間、ま、で、俺、た、ち、を、孤、児、院、に、連、れ、戻、せ、う、と、必、死、に、な

つ

て、いた

・朋子 太郎、さ、ん、て、お、し、や、る、ん、で、す、か

・ 良彦 最近はやり方を変えたらいいな。どうしても俺たちをうつかまえることが出来ないもんだから。うまむこと取り入ろうとしているらしい。食物を持ってきたり、仕事を紹介しようとしてたり、まあいろいろとお節介な奴だよ。

・ 朋子 立派なお仕事なんですか。

・ 良彦 勘弁してくれよ。俺たちがいちばん欲しいのは自由な暮らしなの。あつが絶対に俺たちにくれることが出来ないのもその、自由でやっなの。

◎ 朋子が座り込む

・ 猛 どうしたんだよ。

・ 朋子 わからぬの。何だか胸がいたくて。

・ 猛 ああこんな汚いところにいたから。お、窓開けろよ。風入れなまき。

あと、俺水くんでくるから。ちよと待てて。

・ 朋子 違うの、なんか胸の奥が締め付けられるみたいで。こんな気持ちになったの、初めてなの。

◎ 歌 「せつなくて」

胸の中に別の誰かがいるみたい
こんな気持ち初めて 不思議な気持ち
どうしたらいいのか (どうしたらいいのかわからないの) 今は何 (わからなくて)
なつかしさがあふれる (不思議な不思議な気持ち (気持ち) せつなくて くるしくて)
けれどもあわせ (胸の想を誰に胸があいの (伝えたらいいのだろう)

新しい私が (別の僕が
生まれたみたい

◎ 朋子 寝てしまう。

・ 良彦 疲れてたんだな。

・ 猛 ああ。

・ 良彦 あという間の失恋だったかなにが。

・ 猛 ごまかすなよ。

・ 良彦 俺も寝るか。

・ 良彦 しょうがな。奴だな。

4

◎ 次の日の朝 署長室

・ 太郎 おはようございます。

・ 署長 …。

・ 太郎 朝からなんですか。結婚のことならもう断りましたからね。

・ 署長 …。

・ 太郎 延期? いったいつの予定だったんですか?

・ 署長 …。

太郎 当たり前ですよ。三日後にいきなり結婚式だなんて、延期にならないほうがどうかしてるんですよ。まあ、僕に関する限り無期延期、すけどね。

・ 署長 …。

・ 太郎 ともかく、この件でも僕を呼び出しなしてください。失礼します。

署長 …。

・ 太郎 街の様子ですか。どうしたんです。いきなり。僕が保護観察員になってからそんなこと気にしたことなめたじゃないですか。

・ 署長 …。

・ 太郎 いろいろですよ。毎日きちんと学校に言ってくれている子はいいんですが、問題はホームレスの子供なんです。僕らもきちんとした施設をつくってあげりなんです。どういう訳かそこを逃げ出してしまふ子供がいるんですよ。最初はなんとかして連れ戻そうとしていたんですが、最近は何とか心のそこから理解しようと努めているんです。

・ 署長 …。

・ 太郎 確かに遠回りですよ。でも、理解することでは彼らをつかんでおくことは出来ないと思えます。お父さんたちみたいに、閉じこめていたんじゃないですか。彼らはまるでピターパンのように、自分たちだけのネーランドで大人になることを拒否して生きているんです。

・ 署長 …。

・ 太郎 ピーターパンを知らぬんですか。

・ 署長 …。

・ 太郎 空を飛ぶ子供です。決して大人になることがないんですよ。

・ 太郎 …。

・ 署長 …。

・ 太郎 そうです。おとき話ですよ。でも、おとき話の中にしかない真実もあるんです。僕らには分からない。彼らにとつての真実があるのなら、僕はそれを知りたいんです。ではこれで、僕は忙しいです。もう結婚とか、無駄な話を呼び出さなほってください。

◎ 太郎 去る。

5

◎ 街角 ネズミが座っている。猛 良彦 朋子がやってくる。

・ ネズミ だめだよ。今日はこ、私が取っただからね。

・ 良彦 なんだよ。いつもは一緒にやるじゃないか。

・ ネズミ 今日ダメ。明日もダメ。ずつとダメ。あー、やり方を変えた。これからは一人でやるんだから。

・ 良彦 なんかあても知らぬぞ。

・ ネズミ なに言ってるんだよ。いつもわたしが守ってやてるんじゃないか。

・ 良彦 馬鹿言葉。

・ 朋子 みんなでやりましょうよ。

・ ネズミ あんた、何にも分かってないんだよ。

・ 朋子 でも、みんなで行ったほうが楽しいと思っね。

・ ネズミ お、どかひくのかよ。

・ 良彦 ああ、ちよとネーランドまでね。

・ ネズミ まだ、やてるんだ。あんたさあ、いい加減に目をさましたら、笑われるよ、本当に。

・ 猛 うるさいな。話しかけるなよ。

・ ネズミ あらあら、恋をするよ。少年は大人になるっていうけど、あんたはガキのままね。

・ 朋子 恋?

・ ネズミ いい、この少年はさ、あんたに…。

・ 猛 黙れ。

・ ネズミ ああこわいこわい。

◎ ぞへ太郎がやってくる。

・ 太郎 おや、みんなそろつてね。

・ 良彦 また来たか。

・ 太郎 ネズミ君もいるのか。これは好都合だ。ああ、朋吉君。

・ 朋子 朋子と呼んでください。

・ 太郎 朋子君ね。よし、メモしておこう。

・良彦 じゃあな
・太郎 おと今日はそういう訳にはいかないんだ。昨日だった仕事のことだ
けどいいのが見えたよ。多分今度は気に入ってもらえると思うんだ。

・ネズ 私帰るね

・太郎 だめだめ。その遊園地のお好み焼き屋さんの売り子なんだ。残たら
みんな帰って帰っていつて言ってたぞ。でも君達みたいな元気な子供たち
が売ったら売れ残るわけないものな。

・良彦 元気な子供たちでなんだよ。

・朋子 私元気で。

・ネズ あんたは黙てな

・猛 おい。

・太郎 まあいろいろ都合もあるだろうけどこの太郎さんが苦勞して探してき
たんだ。こんな道路に座ってるよりずっといいぞ。さあこれが着替えた。一
度家に帰って水でも浴びてきれになて集合だ。

・ネズ お前がやれよ。

・太郎 いやあ 嬉しいなあ。二つ足りないかと思ってたんだけど たまたま二つ
余分があつたよ。これ 君ね。

・朋子 はい。

・太郎 じゃあ きちんと着替えてお昼に集合な。昼はちぷりお好み焼きが食
られるぞ。さて 打ち合わせ 打ち合わせと。

◎ 洋服を置いて太郎が去っていく。

・ネズ なんだよこりや。七五三か。

・良彦 疲れるんだよなあ。あつ。でもこの服 古着屋に叩き売たら金になりそ
うだ。

・ネズ なるほどねよし。

◎ 服を集めるが、朋子が服を持って離さぬ。

・ネズ 離せよ。

・朋子 いやです。

・ネズ 離せていつてるだろ。

・猛 やめろよ。

・ネズ こんなもん どうするんだよ。まさかこんなもの着て遊園地に出かける
つもりなのか。

・猛 そうだよ。

・良彦 お前 本気か。

・ネズ いいかげんにしろよ。あんた 馬鹿だよ。目が見えないのかよ。この女は
太郎のこと好きなんだぞ。そんなの一目見れば分かるじゃあな。

・朋子 私が、太郎さんのこと、好きなんですか。

・猛 ちよと、先に行つて着替えていてくれなひか。

・朋子 でも
・猛 早くしてくれよ。

◎ 朋子 去る。

・猛 言いたことがあたら言えよ。

・ネズ 別にいいよ。

・猛 朋子さんが、太郎のこと好きだつて言いたんだろ。

・ネズ まあな。

・猛 そんなことわかつてるんだよ。あつ、ずるいよ。昨日きなりあてき
てよ。それでいきなりこんなになちまうなんてあんまりだろ。おい、ネズミ
そう思わなひか。あつが朋子さんになちまうてあつたんだよ。あつが一晩
泊めてあつたか。あつがピーターパンの話したか。あつが空飛ぼうつて言
つてあつたかよ。あつ、何にもしてないじゃあな。汚よ。そんな馬鹿な
ことあるかよ。

・ネズ しょうがなひだろ。

・猛 わかつてるんだよ。しょうがなつてことはさ
・ネズ 忘れちまひないじゃあな。仲間だつてゐるんだから。あんな女
関係なひよ。

・猛 でも

・ネズ そんなにあの女が好きか。

・猛 悪か。

・ネズ 関係なひよ。よし、わかつたよ。あたしが教えてやるよ。

・猛 なにを。

・ネズ だからその、女の口説き方だよ。

・猛 誰か？

・ネズ 私が。

・猛 何を？

・ネズ 恋の仕方だよ。

◎ 後で良彦がわらいこぼる。

・ネズ 良彦 てめえ、ぶころすぞ。

・良彦 悪い悪い。でもよ。

・ネズ いいんだよ。ちよとつち来よ。

・良彦 はいよ。

・ネズ いいか、まずデートを申し込むんだ。

◎ 歌 「恋の手ほどき」

・猛 「ぼほぼくとででーとを
ウジウジしてると逃げられる

・ネズ 「おう、ねえちゃん、今夜暇か

・ネズ 下品な男は嫌われる
優しくさわやかにちよと、心の隙間に入り込んでみせて
素敵な一時をきとくれると思わせて

・猛 「デートになたらら
相手が時間に遅れても明るく笑つて気にしな
髪型 服装 褒めてみて

・ネズ 「最高にきれいですよ
そんな一言を待っている

・良彦 「公園 行」

・ネズ ベンチに座たらふたり

・猛 こつそりゆくり肩に手を回して

・ネズ 「ダメ」
いつも紳士でいて今は 信頼させていて

・ネズ 「でいよいよ自分の部屋に招待するの」

・良彦 「昨日泊まつただけだな

・ネズ 「なに」

・良彦 いや、こつちの話

・ネズ ボムム絞つて音楽を

・猛 「そんなものなひよ

・ネズ 紅茶とケーキを勧めるの

・良彦 「上品あて

・ネズ 勇気をふるつて愛の言葉

・猛 「うまく言えないよ

・ネズ たどたどしくても誠実に

・猛 小さな僕だけときとあなたを遠く連れていつてあげる

初めて見つけたよ夢を あなたを守りたい

・ネズ 大丈夫 それなら うまくいく

◎ 朋子が戻ってくる。

- ・ 朋子 似合うかよ。
- ・ 猛 最高にきれいですよ。
- ・ 朋子 え。
- ・ 猛 さあ、僕も着替えてこなくちや。手伝ってくれるかなあ。
- ・ 朋子 はい。

◎ 猛 朋子去る。

- ・ 良彦 いいのかよ。
- ・ ネズ いいわけないだろ。
- ・ 良彦 馬鹿な奴だな。
- ・ ネズ あつが落ち込んでるところ見てるほうがいやなんだよ。
- ・ 良彦 まあいろんな考え方があつたよな。どうするんだ。
- ・ ネズ 行けるわけないだろ。お好み焼きなんて、ばかばかしくてやてられないよ。
- ・ 良彦 まそういうことしておくか。俺は行くぜ。
- ・ ネズ 勝手にしろ。
- ・ 良彦 腹つぱい食わせてもらおうとするか。じゃああとで会おうな。
- ・ ネズ 行かなくて言うたろ。
- ・ 良彦 じゃあな。
- ・ ネズ あたしは行かないからね。お好み焼きなんか大嫌だ。みんな喰うすぎで死んじまえばいいんだ。
- ・ 良彦 あとでな。
- ・ ネズ 馬鹿野郎。

◎ 良彦とネズ 左右に別れ去っていく。

6

◎ 別の街角 公衆電話がある。克也が一目をはばかりように来てきてポケットの紙切れを取り出す。

- ・ 克也 ひさびさだな。特別指令がくるのはきてきて、十円玉 十円玉と(なかなか見からない) こいいらでいっばいでかい山を当てるなとこのチンカツさまもおまんまの喰上げだな。

◎ 紙切れを見ながら電話をする。

- ・ 克也 ちえ、はやくしろよ。またいぶりやがて。またく、便所でもいってののか。くだらん連絡係の癖に生意気なんだよないちどはしらとひいてやらなといかん。おはようございます。克也です。登録番号248番です。
- ・ 電話 ……
- ・ 克也 合言葉? はい、今思い出します。えーと。
- ・ 電話 ……
- ・ 克也 切らなひください。はい、思い出しました。「金光先生、くろうさん。三日になつてよかたね。あの、この合言葉。何か意味があるんですか?」
- ・ 電話 ……
- ・ 克也 すいません。私には関係ないことですよ。
- ・ 電話 ……
- ・ 克也 分かりました。絶対によけいなことは口にしません。
- ・ 電話 ……
- ・ 克也 秘密厳守ですか。任せてください。これでもわたくし、口は堅ほうなんです。
- ・ 電話 ……
- ・ 克也 そんなに脅かさなひてくださいよ。どうすればいいんですか。

・ 電話 ……

- ・ 克也 人探し? 任せてください。小娘一人ですか。はい、わたくし、女性関係には強いです。そんなふざけた小娘、すぐに捕まえてお尻をひっぱいてやりますよ。あれでしょ、また小銭を持って逃げだしたアホ事務員かなんかがいたんですよ。

・ 電話 ……

- ・ 克也 会長の娘さんですか。

・ 電話 ……

- ・ 克也 秘密厳守ですよ。ね、そりやあで、何で逃げ出したりしたんですか。

・ 電話 ……

- ・ 克也 そりや、秘密厳守だ。会長も立場ないですよ。ね、わかりました。このチンカツによく任せていただきました。なんとかしましょう。大船に乗った気がいってくださいと会長にお伝え…。

・ 電話 ……

- ・ 克也 すいませんで、服装の特徴などは。

・ 電話 ……

- ・ 克也 なるほど、スカートは…以降、上演時の衣装に合わせる…。どうかで見たことがあるないえ、うちの話いや、独り言です。まさか身長はこれくらいで?

・ 電話 ……

- ・ 克也 なるほど、電話しゃ見ませんね。そうですね。一メートル、役者に合わせるセンチくらいで、なんかテンポのはずれたお嬢さんじゃないでしょうか。

・ 電話 ……

- ・ 克也 いえ、心当たりなんか全然。これは結構手こずりそうですね。いえ、任せてください。絶対にみつけます。で、お礼どうか、お手当のほうは?

・ 電話 ……

- ・ 克也 一応約束だけでもいい。わたくしとしてもいろいろと苦労をしようです。ので、危険もあるでしょう。いえ、大島カン二一の為なら命もいらぬ私です。

・ 電話 ……

- ・ 克也 でも、あの、気持ちいいんです。あの、…ちえ、切ちまひやがた。

◎ 受話器を置く。

- ・ 克也 ちきしょう、いいように人をこき使やがて。今にみているよ。いつまでもお前らにあごこき使われるチンカツさまじゃな。あのアホ嬢が大島カン二一の一人娘とはね。こいつは使えるネタだな。一勝負できそうだとにかく、あのガキどもをみつけな。まさか、もうバイバイしたということはないだろ。さて。

◎ そのへ 太郎

- ・ 太郎 やあ、克也じゃな。か。
- ・ 克也 なんだ、太郎か。
- ・ 太郎 あ、かわらぬか、がわいことをしてるみたない。いい加減に足を洗いな。と今に痛、目にあうぞ。
- ・ 克也 お前にはわかんないよ。ガキの頃からい子、い子で来たお前にはな。
- ・ 太郎 なに言ってるんだ。いつかお前が堅気になると思ってた。とかばてるんじゃないか。お前が、まだに大通りを歩いていられるのも、僕が親父にうまく話してるからだぞ。
- ・ 克也 笑わせるなよ。俺に手を出せないのは、俺が大島カン二一の下端だからだよ。お前の親父も最近頑張ってるらしいが、カン二一が本気になったら、すぐに首が飛ぶんだぜ。
- ・ 太郎 そんな馬鹿な話はないさ。
- ・ 克也 そうやて、夢をみてな。現実ほちと汚らしいものさ。
- ・ 太郎 そうかもしれない。だからこそ、僕はその汚い現実から子供達を守っているんじゃないか。
- ・ 克也 お前、それ本気で言てるのか。

・ 太郎 本気だとも
・ 克也 笑わせるな お前のやてることは親父とかわからねえいい子ていう檻の中にガキを閉じこめてるだけさ お前は世の中のことが全部童話の世界にな

つちまえばいいと思ってるのさ 小学校の時からせいっだけは全然かわらねえ 覚えてるか 小学校三年の時な 俺が休み時間に非営ル鳴らしちまって大騒ぎになたことがあたる

・ 太郎 覚えてないな
・ 克也 お前に取っては大したことじゃなかつたんだろうよ お前 俺がやた」と知ってて 先生のところに行ってこう言 たんだけ 「克也君がやたんです。でも 克也君を責めなひでください。僕が克也君と肝試しをやってたんです。僕も同罪なんです。罰を与えるんなら僕にしてください」

・ 太郎 思いましたよ。先生は感動して今回のことはなかつたことにしておくと言つてくれた。

・ 克也 馬鹿 俺はあのあと両親が呼び出されて大変なつたんだよ。知りもしない肝試しのことで聞かれてな 太郎君の勇気を見習えだとも

・ 太郎 それは申し訳なかつた
・ 克也 だからおめでたいんだよ お前のことガキどもがなんて呼んでるか知てるか。ズレ太郎ていうんだよ。やることなすことずれてるからさ。所詮金持ち育ちのお坊ちゃんだ。貧乏ぢたり親をなくしたりした奴のことほわかりこねえ。

・ 太郎 そんなことはなひ。
・ 克也 あるんだよ お前の頭にあるのはせいぜいシンデレラの世界だ。かぼちゃを馬車にかえてくれる魔法使がいたら連れてきて見ろよ。魔法使の来な

い シンデレラは俺みたいに下のほうで床磨きをしてるしかなんだよ。

・ 太郎 僕は魔法使になりたいんだ。

・ 克也 どうしようもない馬鹿だな。まあ 勝手にやってくれ 俺は忙しいからな行くよ。

・ 太郎 今の電話か。

・ 克也 なんだ 聞いてたのか。

・ 太郎 ちよとな。どかの娘さんが逃げたんぢって。

・ 克也 秘密厳守の話なんだ。ばれたら俺はぶち殺される。

・ 太郎 まさか。

・ 克也 大島カン二ーにまさかはなひの。どかのアホと大島の一人娘を結婚させようとしたらしいや。なんか警察関係のガキらしくて、まあ 暴力団と警察の癒着てやだ。道具に使われてるとも知らず、すっかりその気になてゐるらしいや。それで女に逃げられちやな 男として最高に女ともなひぜ。ま

つたく顔がみてみたいよ。

・ 太郎 案外近くにいるかも知れなひぞ。

・ 克也 まあ 俺が娘を連れ戻せば結婚式だ。俺も覗きに行くよ。アホづらを拝

みに

にな

・ 太郎 多分 結婚式はないと思うよ。

・ 克也 俺をなめてるな。もうちゃんと目星はついてるんだ。今日中にみけたす

さじゃあな

◎ 克也 去る

・ 太郎 僕 そんなアホづらかな。まあいや。きばりことわたもんな。僕はどちらかというとも子君のような ああいうタイプのほうが好みだし。よし 頑張ってお好み焼きをくくるか。みんな 来るかな

◎ 太郎 去る

・ 猛 はい、いらしゃい、いらしゃい。おいしいお好み焼きですよ
・ 朋子 お好み焼きですよ
・ 良彦 はい、はい。…てめえ 買えよ。買わなひ？ ガキだと思てなめてるな

この野郎

やめろよ。

・ 良彦 だてあの野郎 あちのたこ焼きなんか買やがて。

・ 猛 お前 始めると結構燃えるな

・ 良彦 だてお前 これほとんど小麦粉だけじゃなひかよ。こんなもん四百円で

売るんだろ。笑いがとまんねえよ。

・ 猛 そんなこと大声でいうなよ

・ 良彦 それでも馬鹿が買ってくんだよ。こりや、俺達のほうが正直な商売だぜ。

最初から「金くねっていうんだからな

・ 猛 そういわれると落ちつかないな

・ 良彦 ま 俺はどうでもいいけどな。しかし、お前似合うな。本当に七五三みた

いだ。

・ 猛 お前こそ、全然似合わないじゃなひかよ。

・ 良彦 小さすぎるんだよ。まあ、そのかこならびたりだな

・ 猛 なにに

・ 良彦 お前 告白するんだろ。朋子さんに。

・ 猛 なんだ、そのことか。

・ 良彦 やるなら早くしろよな。初めてやるお好み焼きに朋子さんが夢中にな

て

るうちによ。また「こりやて空飛ぶんですか。なんて真面目な顔して聞かれ

たらえらいことになる。

うん

・ 良彦 彼女の家探すまでは、何とかこまかさなひと、パーだもんな

・ 猛 別に俺はそんなつもりで。

・ 良彦 ああ、わかつてるわかつてるよし。ちよとど客も途絶えたしな。今だろ

・ 猛 いや、まだ、その、心の準備か。

・ 良彦 なにいつてるんだよ。お好み焼きが珍しいみたいで、お客がこようとこま

いと士でも二十でも焼てるんだ。すぐやれ

・ 猛 おおお

◎ 夢中でお好み焼きを焼いている朋子に近づく猛

・ 猛 おう、朋吉

・ 朋子 はい。…なんだよ。

・ 猛 いや、その朋子さん

・ 朋子 なんだよ。忙しいんだからよ。早く言えよ。

◎ 良彦のところに戻る猛

・ 猛 あんなふうにならわれたらうまくいえないよ。

・ 良彦 お前が教えたんだろ。ああいうしゃべりかた

だて、頼まれたら

・ 良彦 自分したことには自分で責任持つ。ほら 行け

◎ 再び朋子のところに行く猛

・ 猛 朋子さん

・ 朋子 なんだよ

・ 猛 ぼぼぼぼ

・ 朋子 ボール！

・ 猛 は？

・ 朋子 ボール取てくれよ

・ 猛 はい。

・ 朋子 こんどはめちやくちや大きいの焼くからな

- ・ 猛 楽しみだなあ
- ・ 良彦 おい、真面目にやれ
- ・ 猛 朋子さん ぼぼぼくと「ここ」
- ・ 朋子 小麦粉！
- ・ 猛 え？
- ・ 朋子 小麦粉取ってくれよ
- ・ 猛 はい。

◎ ボールを渡す。

- ・ 朋子 めざすは直径四十センチだな
- ・ 猛 ああ…。
- ・ 朋子 早く言えよ。
- ・ 猛 ぼぼぼくと「こ、今度 デ、デ…でかいですな
- ・ 朋子 だからでかいの焼くっていつてるだろ
- ・ 猛 だからその、僕と ああ…。

◎ ネズミが着飾って登場する。

- ・ ネズ (歌う) うじうじしていると嫌われる
- ・ 猛 なんだ お前
- ・ ネズ 様子見に来たんだよ なんだ 似合うじゃないかよ
- ・ 猛 どうしたんだ、そのかこ。
- ・ ネズ 似合うだろ
- ・ 良彦 太郎が持ってきた奴か。
- ・ ネズ そうだよ。
- ・ 良彦 やっぱ来たじゃないか
- ・ ネズ ちと丁寧な口きけよ。あたしはお客様なんだからね
- ・ 猛 金あるのか？
- ・ ネズ 当たり前だろ
- ・ 朋子 ちよと待てるよ、今でかいの焼くからな
- ・ ネズ おい、猛こいつになんかしたのか
- ・ 良彦 これからだよ
- ・ ネズ ふん 弱虫
- ・ 猛 なんだと。
- ・ ネズ お前なんか、男の腐た匂いがお似合なんだよ
- ・ 猛 殴るぞ。
- ・ ネズ じゃあ、真面目にやれよ。ちかく教えてやんだからよ。垂抜たら、殺すぞ。
- ・ 猛 よしみてろよ

◎ みたび朋子のそば。

- ・ 猛 おい、朋子
- ・ 朋子 はい。
- ・ ネズ (歌う) 下品な男は嫌われる
- ・ 猛 うるさい！
- ・ 朋子 はい。
- ・ 猛 お前に言ったんじゃないんだよ
- ・ 朋子 ごめんなさい。
- ・ 猛 小さな僕だけどきとあなたを遠く連れていってあげる。初めて見けたよ夢を。あなたを守りたい。

◎ ちょうどそこへ 太郎が来る。

- ・ 太郎 やあ、頑張ってるかな
- ・ 朋子 はい。
- ・ 猛 ああ…。

- ・ 朋子 見てください、こんなに大きいのが焼けたんですよ
- ・ 太郎 すいな そりや。朋子君は才能があるんだね
- ・ 猛 あつ、なんとかしてくれよ
- ・ 良彦 泣くな 泣くな
- ・ ネズ 人それぞれだからよ。しかたないんだよ
- ・ 猛 うるさい。俺 あつに決闘を申し込んでやる
- ・ 良彦 やめろよ
- ・ ネズ 負けたら最悪じゃないかよ

◎ その間 太郎は特大お好み焼きを試食している。

- ・ 太郎 おいしいじゃないか
- ・ 朋子 そうですか
- ・ 太郎 うん、小麦粉の味がよく出ているよ。余分な具ははついていないところがいいんだな シンプルで美味しいよ
- ・ 朋子 あと食ってください。
- ・ 太郎 いや、こんなに大きいのは僕一人ではね
- ・ 朋子 食ってください。
- ・ 太郎 じゃあ、もう一切れ
- ・ 朋子 おいしいですか
- ・ 太郎 ああ、ほべたが落ちそうだよ
- ・ 朋子 本当ですか
- ・ 太郎 僕が嘘をついたことがあるかい。いや、また知り合ってから二日しか経てないね
- ・ 朋子 はい、でも

◎ 包丁を持った猛が割てはいる。

- ・ 太郎 やあ、猛君
- ・ 猛 きさま、俺とは、は、は、は
- ・ 太郎 どうしたんだい。
- ・ 猛 は、けこううまそうじゃないか
- ・ 太郎 なんだ、君も欲しかったのか。包丁なんか持てなくても、ほら、箸で切れるほど柔らかいぞ。
- ・ 猛 いただきます。
- ・ ネズ だめだ、あつ。
- ・ 良彦 見てるうちが情けなくなってくる
- ・ ネズ あたし、帰るよ。ばかばかしくなってきた
- ・ 良彦 嬉しいか。
- ・ ネズ そういうこと言うなよ。複雑な気分なんだからよ
- ・ 良彦 おい、俺にも一口食わせろよ。小麦粉だけのお好み焼きなんて、なかなか食えないしな
- ・ ネズ やつてられねえよ

◎ と、帰りかけたところで、克也と鉢合わせする。

- ・ ネズ 気を付けろよ…なんだ、チンカツか
- ・ 克也 ガキと遊んでる暇はないんだよ
- ・ ネズ なんだと
- ・ 克也 大島朋子！
- ・ 朋子 はい。
- ・ 太郎 大島朋子？
- ・ 良彦 は、って、あんた、大島ていうの？
- ・ 朋子 はい。
- ・ 猛 大島カンパニーの？
- ・ 朋子 大島カンパニー？
- ・ 猛 知らないみたいだぞ。人違いじゃないか
- ・ 良彦 びっくりしたな、同姓同名か

・ 克也 俺の目はごまかせないぞ。まったく、結婚式すぼかして逃げ出すなんて
とんでもないお嬢さんだぜ。
・ 猛 結婚！
・ 克也 ガキは黙てる。
・ 猛 おい、人遣いだろ。朋吉、何とか言えよ。
・ 朋子 だて、私、ピーターパンを待ってたんです。きとピーターパンが窓を開
けて私をネーランドに連れていってくれるから、私、ずっと待てるんです。
でも、ピーターパンは来ないから、私、探しに行くんです。

・ 猛 朋吉…。
・ 朋子 空の飛び方を教えてください。朋吉にも空を飛ばせてください。猛さん
ピーターとお友達なんです。空を飛びたいんです。ちよと太てるかも
しれないけど、わたし、一生懸命やりますから、空の飛び方を教えてください。
い。

・ 猛 ああ。
・ 朋子 飛んではんですか。
・ 猛 …。
・ 朋子 飛んではんですか。
・ 猛 ごめん
・ 朋子 本当に空が飛びたかたんです。ネーランドに行きたかたんです。
・ 猛 太郎！ 何とかしてくれよ。お前、正義の味方なんだろ。朋子さんはな
お前のこと、好きなんだぞ。お前、何とかしろよ。朋子さん、連れて逃げろよ。
・ 克也 太郎？ お前、なにしてるんだ。
・ 太郎 お好み焼き屋さんだよ。
・ 克也 お似合いだ。
・ 太郎 猛君、良彦君、ちよと席をはずしてくれなな。
・ 良彦 なんだよ、偉そうに。
・ 太郎 お願いだ。
・ 猛 やだよ。
・ 良彦 行こえ。
・ 猛 やだよ。
・ 良彦 馬鹿野郎！ ガキの出る幕しやないんだよ。

◎ 猛が去っていく。良彦が後を追う。

・ 克也 なんだよ。なにかあるのかよ。
・ 太郎 克也、僕はアホ顔かな。
・ 克也 なんだよ。いきなり。
・ 太郎 僕がその、アホなんだよ。警察と暴力団の癒着、そのだしになたアホ
なんだよ。
・ 克也 結婚するアホか。
・ 太郎 僕が連れて帰ろうと思うんだが、構わないか。
・ 克也 結婚するのか。暴力団とお仲間になるのか。
・ 太郎 暴力団は嫌いだ。
・ 克也 じゃあ、どうして…なるほど、わかりましたよ。ちえ、そんな役たよな
おい、礼金はお前の親父からもらうからな。まあ、今度のところはかこい
役やらせてやるよ。じゃあな。

◎ 克也去る。

・ 太郎 そういっわけなんです。
・ 朋子 ああ…。
・ 太郎 ちゃんと迎えに行きますから、お父さんのところに帰してもらえませ
んか。

・ 朋子 はい。
・ 太郎 僕は、子どもの頃からウルトラマンになりたかたんです。正義の味方に
なて悪い奴から地球を守りたかたんです。それなのにウルトラマンは宇宙
に帰てしまいました。これから地球は誰が守るんだよ、そうだ、僕、しかないな
いと思て、体育だけは一生懸命やりました。そしたらウルトラマンがまた帰

つてきて、これで地球も安心だ。僕が大きくなるまでウルトラマン、頑張て
くれよ。そう思てたんです。そしたらまた、ウルトラマンは宇宙に行てし
まいました。なんでだろう、僕はまだ小さいのに。しばらく待ていたら新し
いウルトラマンが地球にやてきました。ウルトラマン、名ウていっんです。
あれ、僕なんです。もう一人の僕が毎週三十分だけ一生懸命地球のために戦
ていたんです。今、僕も戦てます。

・ 朋子 悪奴と？
・ 太郎 はい。
・ 朋子 大島カン二ッて悪いことするんでしょ。さきのチンカツさんが言
てました。太郎さんの敵なんです。ね。
・ 太郎 そうです。だから僕は朋子さんを大島カン二ッから守るんです。
一つ、教えて欲しいんです。

・ 太郎 友子、ウルトラマンはピーターパンなんですか。
・ 太郎 漢ます。ピーターパンはネーランドに住んでる大人にならな子ど
もです。でも、ウルトラマンは大人なんです。この世界には悪い奴がいっぱ
いるんです。ウルトラマンはやられてもやられても悪い奴と戦うんです。

・ 朋子 はい。
・ 太郎 ウルトラマンも空を飛るんです。僕も空を飛るんです。心だけで
けど、ね。
・ 朋子 はい。
・ 太郎 じゃあ、お父さんのところで合合しよう。
・ 朋子 はい。

◎ 朋子去る。間、猛が包丁を手に現れる。

・ 猛 朋子さんをどうした。
・ 太郎 帰たよ。
・ 猛 どこに。
・ 太郎 お父さんのところだ。
・ 猛 お前、彼女を大島カン二ッに渡したのかよ。
・ 太郎 家族のところに帰るのが一番いいんだよ。
・ 猛 家族なんて大嫌いだ！
・ 太郎 そうだね、君は三歳の時、ご両親を亡くしたんだね。
・ 猛 大人の言葉、話すな。そうだよ、死んじましたよ。俺は親戚の間をたらい
回しにされて、結局孤児院に連れてかれたよ。家族のところに行くのがそん
な

にいいかよ。お前、いい奴だと思てたのによ。ちよとうるさいけど、話の
分かる奴だと思てたのによ。

・ 太郎 包丁を渡してくれなな。
・ 猛 大人の言葉、話すな。
・ 太郎 いい子だから落ちついてくれよ。
・ 猛 大人の言葉、話すな。
・ 太郎 わかたよ、事情を説明する。
・ 猛 説明なんてやめる。今すぐ飛よ。
・ 太郎 猛君。
・ 猛 今すぐ飛よ。
・ 太郎 いい子だから聞いてくれよ。
・ 猛 俺はいい子なんかじゃない！

◎ 猛が太郎を刺す。あわてて逃げる。

・ 太郎 いいよ、逃げなくて。ウルトラマンは傷だらけになても死ななんだよ。
いいんだ、逃げなくて。

◎ 克也がやてくる。

・ 克也 様子 見てたぞ。
・ 太郎 馬鹿だな。止めてくれればいじやないか。
・ 克也 猛ちてこのままじゃ納まらなだらうと思てさ。本気で刺すとは思わなからたけど。
・ 太郎 ひとごとだと思て。
・ 克也 どうせかすり傷だ。おい、手をかすよ。
・ 太郎 これからもずとな。大島カン二をなんとかしなくちゃ、示しがかない。
・ 克也 死んだほうがいいんじゃないか。
・ 太郎 死んだ気になってやるよ。結婚式は当分延期だな。
・ 克也 俺みたいな下端じゃ関係ないよ。
・ 太郎 新郎友人代表で呼んでやるよ。
・ 克也 約束だぞ。

◎ 二人去る。

8

◎ 翌朝 猛が歩いてくる。後を追って良彦とネズミ。

・ 良彦 本当に行くのかよ。
・ 猛 うん。自首するよ。
・ ネズ 太郎も大した怪我しやなくてすぐ良くなるらしいじやないか。
・ 猛 うん。
・ 良彦 あかさお前には黙ってたんだけど、朋子さんの財布 俺、預かてたんだよ。返しそびれちぢてさ。
・ 猛 あ、穹ぼの財布か。
・ 良彦 朋子さんは知らなからたみたいだけどな。裏の縫い合わせのところに一万円札が五枚 たたんでつっこんであった。

・ 猛 お前 財布こわしたのか？
・ 良彦 まあちよと勘が働いてな。きと大島の親父が保険のつもりでいれておいたんだらう。

・ 猛 ちゃんと返せよな。
・ 良彦 これは朋子さんのプレゼントなんだよ。無意識かもしれないけど。だからこれお前にやる。これ持て逃げるよ。太郎の意識ははっきりしてるみたいだから、お前がやたことすぐばれるしな。

・ 猛 太郎は言わないよ。

・ 良彦 なんだ？

・ 猛 そんな気がするんだ。きと包丁で遊んでてけがしたとか、訳のわかんないことを言てると思て。

・ ネズ だたらなおさら自首することなんかないよ。

・ 猛 良彦 お前言たる。自分のしたことには責任もたなきやダメだてさ。俺 太郎を殺してやろうと思たんだぜ。負けたと思たよ。だて朋子さんはあいつを信じたんだものな。あいつ、大人だ。たんだよ。

・ ネズ ガキのまんま、いいじやないか。

・ 猛 ネズミ。これ、やるよ。

◎ ピーター。パンの絵本を渡す。

・ ネズ 馬鹿にするなよ。お前一人で大人にならもりかよ。

・ 猛 ネズ ーランドなんかどこにもないんだよな。俺が自分をつくらない限りどこにもないんだ。俺 絶対太郎よりすいネズ ーランドつくるからさ。お前も自分のネズ ーランド作れよ。

・ ネズ お前と一緒に島じゃダメか。

・ 猛 それもおもしろいかもな。じゃあ、俺行くよ。その辺うろろしてるとさ。

・ 良彦 太郎の結婚式場に火をつけそうだな。少し頭冷やすよ。

・ 良彦 しょうがねえさ。

・ 猛 差し入れ 待てるぞ。じゃあな。

◎ 猛 去る。

・ ネズ いらちぢた。
・ 良彦 おい。山分けな。

◎ 一万円札を一枚つづつにわけける。少し考えて五枚目をネズミに渡す。

・ 良彦 待ててやれよ。どうせ半年くらいなもんだ。差し入れてやれよ。
・ ネズ お前 どうするんだ？
・ 良彦 俺が孤児院の前で捨くられた時な。良彦で書いた紙切れが添えてあつた。命と名前だけは一応くれたわけだ。その紙切れな。考えてみればひどい親だけど、秋田駅の駅弁の包み紙だ。たんだとよ。

・ ネズ 秋田か。

・ 良彦 ああ、俺秋田行てみる。別に親を探そうてわけじやないぞ。まあ、ここにも「あきたしな。金も手にいれたし。」

・ ネズ 戻てこいよ。

・ 良彦 ああ、お前と猛が結婚する頃な。

・ ネズ 馬鹿野郎。

・ 良彦 じゃあな。

◎ 良彦 去る。

・ ネズ みんないらちぢた。

◎ 突然太郎と朋子が現れる。

・ 太郎 ネズミ君 新しい仕事を見つけたぞ。気に入ると思うんだ。

・ ネズ なんだよ。お前 動けるのかよ。

・ 太郎 ウルトランは死ななひんだ。さあ、着替えて着替えて。

・ 朋子 綿かし屋さんのな。一緒にやりましょ。

・ ネズ ふざけるなよ。

・ 太郎 まあ、そう言わないで。

◎ と 太郎 朋子がネズミを追かけ回すうちに暮が降りる。